

インタビュー

ミッション・ビジョンを基軸に、 新市場・新ビジネスモデルの 創出に注力

あらゆるものを安心安全につなぐをコンセプトに新市場・新ビジネスモデルの創出に注力するNTTコミュニケーションズの先端IPアーキテクチャセンター（以下、IAC）。「お客様が笑顔になっちゃう」を実現します!!」をスローガンに掲げたミッション・ビジョンを基軸に、積極的なインキュベーション・プロジェクトを展開するIACの取組みについて、高間徹所長にうかがった。



NTTコミュニケーションズ(株)
先端IPアーキテクチャセンター
所長 高間 徹氏

IACのミッション・ビジョンを策定

—昨年（2009年）6月にIACの新所長に就任され、どんなR&Dビジョンを打ち出されましたか。

高間 私どもIACにおける研究開発の方向性につきまして今年度は、昨年の新年号でもご紹介したNTTコミュニケーションズ（以下、NTTコム）ならではのクラウド構想“Setten（セッテン）”の具現化に向けた取組みを基本方針としています。Settenは、ネットワーク環境も含めてトータルで、安心・安全・高セキュリティ・高品質なクラウド環境を提供しようというものです。すでに、Settenを具現化した商用サービスもいくつか開始しています。このSetten構想を発展させるというのが、今年度の基本的な取組みですが、昨年6月にIACの新所長に就任してすぐ、IACのミッション・ビジョンを策定いたしました。

—新所長としてのカラーを打ち出された……。

高間 「お客様の笑顔」というキーワードだけを示して、部内のミッション・ビジョンに興味がある人に作成してもらいました。IACは直接お客様と触れ合う機会がほとんどない部門ですが、R&Dの原点はお客様です。あくまでお客様あつてのR&Dですので、敢えて“「お客様が笑顔になっちゃう」を実現します!!”というキャッチフレーズを掲げています。

—ミッション・ビジョンの具体的な内容をお聞かせください。

高間 具体的には、ミッション・ビジョンの実現に向け、お客様目線で、3つの取組みを行うことを柱にしています。まず1つは、先進的な技術、マーケティングの中核として、付加価値の高いサービスを創発します。これは、技術だけでなく、ビジネスモデルも含めた検討により利用シーンを創造し、お客様に喜ばれるような付加価値を付けていくことです。2つ目は、知恵や知識の集積所として、事業のイノベーションをサポートします。3つ目が人財育成に関す

る取組みですが、全社の人財養成所として先見力や創造力に長けた人財を育成します。この3つの取組みを実施することによりIACは、NTTコムの夢工房として世の中のワクワクを生み出し続ける組織、NTTコムの頭脳集団として頼られ期待される組織、NTTコムの寺子屋として



IACのミッション・ビジョンポスター

世界に通じる人財を輩出する組織になることを目指します。そして最終的には、IACのみんなも笑顔になっちゃうというものです。

——人財育成の観点で、事業部門との人材交流の仕組みも構築されているのですか。

高間 今までも人材交流はありましたが、交流のパイプをさらに太くしたいと思っています。人材交流を積極的に行うことによって、交流した相手の部署にシンパを増やすこともできますし、お客様のニーズを直接把握することも容易になります。

R&D 戦略の基本となる開発のポートフォリオ

——ミッション・ビジョンを策定され、次のステップとしてどのような取組みを行っていますか。

高間 ミッション・ビジョンの次は戦略ということで、戦略策定チームを作り、マーケティング的視点から開発のポートフォリオを作成しているところです。これは、管理職とこれからのIACの在り方を議論していく中で、開発のポートフォリオをしっかりと考えていくことが重要という課題が出てきたことが契機となっています。このポートフォリオに基づいて、インキュベーション・プロジェクトを推進していく。つまり、マーケティングを踏まえて新しいビジネスモデルを創発、新しいサービスのポートフォリオを含めて、開発部門で考えて推進していくというのがIACの基本戦略です。

NTT コムならではのクラウド、Setten構想の具現化に注力

——冒頭、今年度の基本方針は、Setten構想の発展というお話でしたが、具体的にどのような取組みを行っていますか。

高間 NTTコムならではのクラウドとして、Setten構想を推し進めています。詳細は、後続の各論でご紹介しますが、Setten構想の中核となる「BizCITY（ビズシティ）」や、「WebOS」を使ったクラウドオフィスサービス、禁止アプリケーションの起動禁止や、OSやセキュリティソフトのアップデート、さらには回線障害時のモバイルネットワーク経路での自動バックアップなど、ICT管理者が不在のオフィスでも漏れのないセキュリティ対策の実施が可能な「ビジネスゲートウェイ」などの提供に向けて取り組んでいます。

——その他、現在はどのようなインキュベーション・プロジェクトを推進されていますか。

高間 現在、100近いインキュベーション・プロジェクトを推進していますが、例えば実用化開発の面では、TMPLSやVoIP、テレビジョン中継といったサービス開発などは引き続き私どもで行っています。また、IPv4アドレスの枯渇が現実のものとなりつつあることから、以前から取り組んできたIPv6についてもお客様からの引き合いも多くなっており、コンサルティングも含めた取組みを行っています。

——R&D部門として、貴センタの特

色はどのようなところにあるとお考えですか。

高間 NTTコムは、上位レイヤからネットワークレイヤまで、全領域でビジネスを展開していますので、IACのR&D活動も非常にバラエティに富んでいるというのが特色です。OCNを提供して13年になりますのでIPネットワークの技術の集積は相当あります。また、画像関係の技術の集積もあり、ユビキタス環境下で、デバイスフリーの映像配信の実現に向けた取組みも行っています。さらに多要素認証など認証系を含めたセキュリティ技術の集積や、検索・レコメンド技術も大きな特色です。

——最後に、若手研究者に対する期待を含めたメッセージと、今後の抱負をお聞かせください。

高間 IACのミッション・ビジョンにつながることで、技術を追求する際に、どのように利用されるかをイメージして欲しいと思います。利用シーンを考えることがいろんな“気づき”につながります。技術を利用したお客様の笑顔を見る喜びをぜひ感じて欲しいと思います。

今後の抱負としては、お客様のニーズを正確に分析し、NTTコムとしてのサービスの在り方を見つめ直す営みを組織的に行ってコンセプト化していくことで、お客様に対して必要十分なサービスを早く効率的にご提供していくというオペレーションアーキテクチャを確立したいと考えています。

——今日は有り難うございました。

(聞き手・構成：編集長 河西義人)